

全幼研の事業

全幼研の魅力とは

会員は、国公私立の幼稚園、保育所、こども園、大学等、幼児教育関係者です。全国の幼児教育に関わる様々な立場の会員が、情報を交換したり、学び合ったりする全国規模の公益社団法人です。また、身近な地域でも研修会を実施し、共に学ぶ仲間づくりができます。

研究助成制度について

会員だけでなく、広く幼児教育の現場で行われている自主的な研究に対し、研究助成を行い相互の見識を高め、幼児教育の振興と充実を図るために、「研究助成制度」があります。

〈助成金額〉 研究奨励・・・10万円
研究助成・・・5万円

発行書籍

保育のヒントがいっぱい！



その他、多数発行しています。HPでご確認ください。

全国幼児教育研究大会・教育経営研修会

全国の国公私立の幼稚園・保育所・こども園の保育者等が集い、講演会や幼児教育の課題に基づいた分科会、ワークショップなど、共に学び合っています。

研究大会分科会



素材について研究し、楽しい活動をしたくなりました。ワークショップで学んだことを、早速実践してみます。早く子どもたちに会いたくなりました。



「多様な教育機関の方々や他県の先生方と語り合い、どこかでひとつに“つながっている”ことが感じられました。講師の先生のお話でグループ協議の内容が深まり、大変勉強になりました。



研究大会ワークショップ

教員免許状更新講習

研究大会では、教員免許状更新講習も行っています。
(選択18時間)

教育経営研修会



いつも、最新の情報を聴くことができ、幼児教育の現状や課題がよく分かります。

10年、20年先を見据えた保育実践を重ねていきたいと思ひます。

研究紀要

文部科学省委託研究の成果など、最新の教育課題に対応した提案や論説を掲載しています。



機関誌「若竹」

「若竹」は、研究大会や教育経営研修会報告、また、保育に生かす実践や遊び、考え方などを紹介しています。

会員の特典

- 1 全国幼児教育研究大会、全幼研教育経営研修会等に、会員として参加できます。
研究大会 5,000円(一般 10,000円)
教育経営研修会 4,000円(一般 7,000円)
* 学生は、学生割引で参加できます
- 2 大会、研修会では最新の情報が得られます。
 - ・文部科学省、厚生労働省等の最新の施策について学ぶことができます。
 - ・乳幼児期の保育・教育をリードする講師陣により、最新の知見が得られます。
 - ・国公立幼稚園・保育所・こども園の保育者、大学の幼児教育関係教員、行政関係者と情報交換ができます。
 - ・ワークショップや基礎講座を受講することでその時々の教育課題について、楽しく学ぶことができます。
- 3 各支部の研修会、活動に参加できます。
 - ・乳幼児保育・教育について熱心に研究・研修する仲間が出来ます。
- 4 研究紀要、機関誌等が配布されます。
- 5 ホームページの会員専用ページが見られます。
 - ・幼児教育の最新情報、研究紀要、広報誌「若竹」のバックナンバーが見られます。

会員になるには

全幼研事務局、または、お近くの会員にご連絡ください。

<年会費>

- 個人会費 4,000円
- 団体会費 8,000円(1園2名まで)
- 法人会員 30,000円

<学生会員(28年度より予定)>

全幼研の歩み

- S27 全国モデル幼稚園協議会創立
第1回全国モデル幼稚園協議会開催
(その後、名称を変更し、現在、全国幼児教育研究協会となる)
「研究資料」第1号発行
- 29 機関誌「わかたけ」第1号発行
全国幼稚園施設協議会と改称
- 53 全国幼稚園教育研究協議会と改称
- 54 「幼稚園施設研究」を「全幼研研究紀要」と改称
- 55 第1回全国幼稚園経営研修会開催
- 56 調査研究開始 調査研究報告書作成
- H5 調査研究推進園・協力者会議の発足により、文部科学省より研究委託を受ける(以降毎年)
- 13 創立50周年式典・記念研究大会・祝賀会開催
文部科学省より感謝状授与
- 18 社団法人全国幼児教育研究協会設立
- 23 創立60周年式典・記念研究大会・祝賀会開催
- 25 公益社団法人全国幼児教育研究協会へ移行
本部事務局を現住所に移転

全幼研事務局

- 住 所 〒102-0074
東京都千代田区九段南2-4-9
第3早川屋ビル8階
- T E L 03-3239-8066
- F A X 03-3239-0038
- E-mail admin@zenyoken.org
- U R L <http://www.zenyoken.org>

全国幼児教育研究協会



この指、とまれ!

理事長 岡上 直子

子どもたちが夢中になって遊び、活動に取り組む姿。その遊びの中には、活動する楽しさや知恵だけでなく、悔しさや困難に立ち向かおうとする心など、様々な非認知的能力の育ちにつながる芽がたくさんあります。今、保育者には、こうした幼児の心の育ちに着目した保育力が求められています。

本会は、昭和27年の発足当初より、施設や保育の在り方について、常に幼児の立場から研究を進め、教育行政に粘り強く働き掛けてきました。こうした活動をさらに力強く推進し、保育力を向上させるためには、保育現場である幼稚園・保育所・こども園の保育者の皆さんと、幼児教育研究者の皆さんとの協働は不可欠です。

ぜひ、本会にご参加ください。保育力を磨き合いたい人、この指とまれ!!